

<アーチファクト>以下の4つに分類される

エコーの物理的特性によるもの

- ・ **Blood speckle**
- ・ **Shadowing**
- ・ **Reverberation** (多重エコーによる虚像) など

心拍動の影響によるもの

右冠動脈と左回旋枝では拍動による画像のぶれが大きい

カテーテル・ワイヤーによるもの

うまく利用すれば **side branch** の合流位置の確認などに使える

操作に起因するもの

- ・ **NURD ; non-uniform rotation distortion** (機械式 IVUS の回転ムラによる)  
原因 血管の蛇行・カテーテルの屈曲・Yコネの閉めすぎ  
対処法 カテーテルを直線に保つ Yコネクターをゆるめる
- ・ **Air bubbles**  
対処法 一度カテーテルを抜いて体外でフラッシュする

<Angio で透亮像をみたとき>

**Plaque protrusion**

**Calcified plaque** 後方の **acoustic shadow** や **reverberation** を伴う

**Dissection**

**Thrombus**

**Raptured plaque**

<STENT の観察>

STENT の不完全圧着

**Type A ; STENT incomplete apposition**

- ・ **Resolved**    ・ **Persistent**    ・ **Late** (DES 時代に出現頻度が増えてきている)

**Type B ; Branch associated**

**Type C ; Cavities between the struts**

type B,C は **incomplete apposition** には含めない

<Case1>

冠動脈入口部病変

鑑別 解離性大動脈瘤（ARの有無を確認する）、心房細動による塞栓症 など

< Case 2 >

Calcium のない attenuation

病理学的には何かはわかっていないが治療により no flow を来しやすい

末梢塞栓の予測因子 大量の血栓 lipid pool attenuated plaque

< Case 3 >

冠動脈解離

entryを確認しステントで押さえつける。末梢へ向けて広がる Hematoma は entry から遠い側から順次押さえ込む（手前から押さえると解離腔にさらに圧をかけてしまう可能性あり）